

令和8年度第1回千葉県文化芸術推進懇談会 開催結果

1 日 時 令和8年7月22日（水）午後2時から4時まで

2 場 所 千葉県森林会館 5階第1会議室

3 出席委員（委員総数11名中10名出席）（50音順）

石橋委員、植田委員、垣内委員、草加委員、小林委員、こまちだ委員、佐々木委員、椎名委員、成川委員、森田委員

4 会議次第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

（1）第2次千葉県文化芸術推進基本計画の令和7年度実績について

（2）千葉県障害者文化芸術活動推進計画について

（3）その他

5 議事概要

（1）第2次千葉県文化芸術推進基本計画の令和7年度実績について

事務局から資料1により第2次千葉県文化芸術推進基本計画の令和7年度実績について説明。

委員からの質問・意見等は以下のとおり。

<質問・意見等>

【委員】

基本指標は、鑑賞した人口と活動した人口、言い換えれば、文化芸術との受動的な関わりあるいは能動的な関わりがあるかどうかであり、どちらかといえば鑑賞する人が多く、自ら活動する人の方が少ないのが一般的ではある。

また、各指標の目標値は、計画を策定するときに、各委員からもいろいろなご意見をいただいて決めたものであり、少し高いのではないかという議論もあったが、結果としてこの目標に決まっている。最終的には令和13年度が目標であるため、急激な右肩上がりになれば届くものもあれば、現時点でこれは届かないかもしれないと危惧するものもあるかもしれない。

そのようなことも踏まえ、計画の初年度の評価として、皆さんのご意見をお伺いできればと思う。

【委員】

資料の3ページで令和7年度の新規事業の紹介があった。令和7年度は大阪・関西万博に出展したとのことだが、今後どのような形で「発酵県ちば」を打ち出していくのか、あるいは事業として継続していくのか。

また、施策の柱1の4つめの成果指標「文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思う県民の割合」について、目標は前計画と同じ50%ということだが、令和7年度実績は18.0%で計画策定時の令和5年度実績よりも下回り、少し厳しい数字が出てしまった。6ページに記載の理由では、県政世論調査での年齢別の回答で、「整っている」と思う方の割合が10代と70代前半で増加しているが、それ以外では減少していて、20代と50代は最も減少が激しいという形になっている。10代と20代はなんとなくまとまった傾向がある気がしており、また50代と70代では少し違うのかもしれないが、年代別の傾向や違いをどのように捉えているのか、もしわかれば伺いたい。

【事務局】

まず2点目のご質問について、県政世論調査には年代別の内訳があるが、10代や20代は回答人数が少ないこともあって、年齢による傾向は明確にはわからないというのが正直なところである。なお、この設問に対する回答の選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」「わからない」と6つあり、「どちらともいえない」と「わからない」の回答がかなり多くなっている。「どちらともいえない」と「わからない」にはやや重複感があるため、次回の調査では中立的な選択肢はいずれか1つにし、そう思うのか、そう思わないのかをもう少しきちんと回答していただけるようにしたいと考えている。

最初にご質問いただいた「発酵県ちば」の取組については、大阪・関西万博の後、「ちばの発酵ロゴマーク」を公募し、県内の様々な企業や市町村も含め、ロゴマークを活用してプロモーションを行っている。令和8年度は発酵グルメのPRに重点を置き、醤油や味噌、みりんなどを使用したメニューを集めたグルメフェスイベントを開催する見込みとなっている。千葉県には成田空港があることから、海外向けに訴求することも目指して、PRに取り組んでいる。

【委員】

先ほどもご指摘があったが、施策の柱1の「文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思う県民の割合」について、目標は50.0%だが実績として18.0%とのことだった。参考資料で施設の改修状況をまとめていただいているが、ここに書いてあるもの以外でも、例えば船橋市民文化ホールや習志野文化ホールが休館しており、成田市の文化会館も今後改修する方向で進んでいて、文化活動を発表する場所がないという問題はこれからさらに深刻になっていくのではないかと、今回非常に強く

感じた。ホールが不足している中で、これらの指標の達成値をどのように上げていくかを考えていかなければいけない。

また、子どもや若者が参加する事業に関して、千葉県と市の文化振興財団が協働し、劇団四季や日生劇場のミュージカル公演に子どもたちを無料で招待している。アンケートにおいて子どもたちや学校の満足度といった数字を拾うことができると、さらに良い形になっていくのではないかと考える。

【委員】

8 ページにある、「観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合」が減少していることが気になった。こういった取組は県が単独で主導するだけではなく、各市町村が一体となってこそ増えていくものだと考えている。これまで県がどういう形で各市町村にこういった取組の必要性を伝え、共通理解を得るようなことをされてきているのか、また実績が減っていることに対して、資料の記載以外に考えられる原因や、取組の優先順位を高められるような余地があるのか伺いたい。

【事務局】

県では市町村の文化行政担当が集まる会議を実施しており、会議では、県の取組紹介の他、各市町村に参考としていただけるよう、市町村で行っている他分野との連携に関する事例発表なども行っている。

また、「ちば文化資産」を活用して、観光など文化以外の分野と文化の連携に取り組む事業に対して、県から補助金を支給するといった制度もある。加えて、芸術祭をこれからやっていくことになっているが、芸術祭では、市町村域を超えての取組や観光など他分野との連携による取組が進んでいくと考えている。

今回やや低い数値になってしまい、各自治体で職員やノウハウが不足しているのは大変なところだと感じている。そんな中でも、財政面以外の支援として、例えば県として相談を受けて、国の補助金にこういったものがあるといったご案内や、他の市町村ではこういうふうに行っているといったご案内など、そういったところはもう少しできるようになると良いと考えている。

【委員】

県の方でも、原因がどこにあるかまだフォーカスできていない。一昨年の千葉県150周年のように、全県が1つになったムーブメントがあると市町村もついてくるが、そういうものが終わった後は少し寂しさがある気はする。何か大きなリーダーシップを取れるような事業があると引っ張りやすいのだろう。

【委員】

この計画の策定時から議論に参加させていただいており、いろいろな議論があっ

た中で、こういう計画にまとまったというところも見させていただいている。資料2ページの1年間で文化芸術を鑑賞した県民の割合について、オンラインでの鑑賞も含むということで目標が非常に高く設定されている。国の調査による全国的なデータでは、令和6年度の実態として、オンラインは含まず外出を伴う形で文化芸術を鑑賞したことがある人は43%、インターネットで鑑賞した人が57.9%となっており、県の目標はそれに比べても非常に高いのではないかと思った。実際、現場で鑑賞する方がネットで何も見ないというのはちょっと考えがたく、おそらく重複していても6割ぐらいかなと思ったので、私自身は9割というのが非常に攻めている数字だと考えており、高い目標を設定してそこに向かっていくという点は評価したい。また、実際の経過として、実績が少しずつでも上がっているのは良い傾向かなと拝見した。

質問の1点目として、オンラインでの鑑賞を行ったという回答の割合が増加しているということは、オンラインでの鑑賞はどのぐらい、オンライン以外のものはどのぐらいという形で回答をとっているのではないかと思うので、参考までにそのデータを教えていただきたい。

2点目は、文化活動をした県民の割合の目標が50%で、これも全国調査からいうと非常に高く、全国調査ではここ数年大体13%ぐらいとなっている。食文化や伝統的なものも含め、皆さんにいろいろな文化活動に参加していただきたいという強い思いをこの目標に込めたのだと思って目標を了解したが、結果はだんだん下がっていることもあり、いずれその原因も少し考えていただきたい。この後の「環境が整っているか」という項目とも関連するが、年齢だけではなく、おそらく地域別の差もあるのではないかと思う。この会議に参加する中で千葉県をもう少し知りたくなり、外房、内房、銚子や、茨城県との県境の佐原の辺りにも行った。その中で感じたのが、やはり人口動態が非常に大きく影響していて、人口が減っているところ、それから施設が必ずしも十分でないというご質問もあったが、そういったところもある。こういった外的な条件を加味してもう一度精査し、どういう形で格差の解消ができるような条件を整えるのかをもう少し丁寧に分析すると、次の一手が打てるのではないかと感じた。非常に多様で多彩な地域で、個性がある。文化施設がないというところでも、伝統的なお祭りや、その地域の素晴らしいお宝も多く存在している地域もある。鴨川の辺りは、かつて江戸時代の御料地として牛を育てていたところで、ユニークな食文化もあるということなので、そのような文化資源の状況と、鑑賞や活動の動きをもう少し丁寧に分析されると参考になる知見が得られるのではないかと思った。

もう1点、8ページの観光のところについて。観光に関して食文化は非常に重要で、そこに行かないと食べられない。現地でしか経験できないというコンテンツがあるということと同じなので、観光の競争力は非常に高いのではないかと思う。千葉県には醤油、酒、先ほどのミルクなど様々あって、もちろん海産物や山のものもあるということで、食文化の切り口からどういう形で他の分野と連携するのかということを考える必要もある。最近はNP0などいろいろな団体も立ち上がっていて、地域おこしの企業も出てきていると伺っているので、そういったところのご意見を踏まえ、

県だからこそできる手当をしていただきたい。これは単に何年間か補助金を出すというだけではなかなか難しいところがあるのではないかと思います。例えばクオリティを保証するような仕組みとして、ロゴマークという話もあったが、このロゴがついているものは本物で味も良いといった評価につなげる。発酵食が体に良いというのは世界的に知られているのでそういうクオリティを保証するロゴだという位置付けだと思うが、それは強調されても良い。そういった流通の仕組みを整理されることも、将来的には役に立つのではないかと思います。補助金も大事なことだが、それだけではない、行政だからできる様々なことを、行政以外の団体からリクエストを聞いて、丁寧に対応するというのも良いのではないかと。

【委員】

国の資料を参考に、県が定めている目標がどうかというより、出ている数字としては高い方なのではないかとの話があった。ネットでの鑑賞を指標に入れた経緯として記憶があるのは、コロナ禍のときに、さすがに鑑賞に行ったか行かないかだけで測定すると実績が余りにも低いので、やはりネットでの鑑賞も含めた方が良いのではないかという議論をして、オンラインでの鑑賞を入れた。そのときに比べれば状況が落ち着いてきたので、場合によっては実際の鑑賞とオンラインでの鑑賞を分けて実績をとるということも、検討の一つかもしれない。

それから、千葉県のカ文化芸術というときに、何が文化芸術なのかというのをもう一回上手く伝えたほうが良いかなと感じた。食文化は国も文化と認めているが、例えば景観についても文化として取り組んでいこうと決めていると思われるため、そういった文化芸術の範疇がどこまでかを上手く伝えた上でアンケートをやるのも一つかと思う。

【事務局】

文化芸術を鑑賞した県民の割合について、県政世論調査では、直接の鑑賞と、オンラインやテレビでの鑑賞についてそれぞれ聞いている。直接の鑑賞をした方は64.7%で、令和6年度調査の63.3%から1.4%増加した。オンラインやテレビで鑑賞をした方は66.8%で、令和6年度調査の65.3%から1.5%増加した。資料に記載している78.5%という令和7年度の実績は、直接若しくはオンラインのいずれか、又はその両方を通じて鑑賞した県民の割合となっている。

また、文化芸術の定義について、県政世論調査では問に注をつけ、「映画（アニメ含む）、音楽（全てのジャンル）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道・書道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など」を指すと定義している。ただ、先ほどご指摘いただいたとおり、例えば景観など、文化はもっと幅広くある。経年で追いかける調査であり途中で定義を大幅に変えて良いのかという議論もあるため、慎重に、適宜見直し・検討をしていきたいと考えている。

そして、文化芸術活動の方でご指摘いただいた地域性をより深く分析するという

ところは県としても今後きちんと見ていかなければならないと考えている。今回の世論調査では、直接の文化芸術活動をした方は県全体では26.9%となったが、地域別に見ると、安房・君津といった房総の方で30%を超えており、どちらかという都心から離れている地域の方が直接の文化芸術活動をされている傾向にある。様々な要因が絡んでいると思われるためなかなか一概には言えないが、このような地域別の状況を経年で追いかけて、県として分析をしていきたい。オンラインでの文化芸術活動についてはそこまで地域別の差異はないが、安房地域の方に少し大きな数値が出ている。また、年代別ではある程度顕著に傾向が見えており、やはり若年層、20代・30代の方が圧倒的に多くなっている。

加えて、観光などとの連携といったお話をいただいたが、県でも、例えば、落花生、サツマイモ、梨などの重点品目を決めて重点プロモーションを積極的に行っているため、そういった取組と連携し、様々な取組に拡大していけないかなど検討していく必要があるのではないかと感じた。

【委員】

地域によって、文化を、鑑賞・活動するのもなかなか難しいという状況は起きていると感じる。学校教育の面でも、図画工作の先生は減っているし、部活動も学校が担うのではなく地域移行になっていくと、より経験が少なくなっていくのではないかな。私が住んでいる地域では、吹奏楽部を創るのが大変で、美術部は少なく先生もいないので、これから消えていってしまうのではないかなと思う現実もある。そもそもの種を植える、学校教育の中での難しさがあると思うが、やはり、地域によっての数字を明瞭にしていくということは大事だと思う。

また、食文化の点で、千葉県では嶺岡牧場の伝統的な酪農もあるが、種を大事にしている地域もあったかなと思う。まだ続けているかどうかは調査していただきたいが、久留里城址資料館の学芸員をしている方が地域の伝統的な種の調査をしていたかなと思う。また、農業を行う方が高齢化し、継続の課題もある。これらも文化としてとらえるならば、農業との連携も文化振興の一つの方策になるのではないかなと考える。千葉県には花の品種改良をしている農家があったり、世界に輸出するための花の開発をしているところがあったり、トマトの開発など一般市場には出ないが新しい品種を作っているようなところもあったりするため、そういったところもリサーチすると、千葉発の食文化をまた一つアピールできるように思う。千葉県は農業が大切な県であるため、文化としてもバックアップできると良いのではないかな。

【委員】

地域と年齢などでクロス統計を取ってみると、何か見えてくるものがあるのではないかなと感じた。

それから、食文化の多様性について、発酵文化は千葉の売りではあるが、近隣には納豆を強く推している県があったり、東北ではお酒がどんどん表に出たりしている。

発酵文化とは何かというのが、醤油や味噌だけというところと少し弱いかもしれないので、何かもう1個工夫があると打ち出しやすいのではないかと思います。

【委員】

私は、伝統文化や食文化をどのように活用しながら地域の中に生かしていくかというところに心を寄せて活動している。佐原は、もともと発酵醸造文化に特化した生業を中心にしてきた地域であったため、発酵をどのようにまちづくりの中で生かしていこうかというところで、2年ほど前に全国発酵食品サミットを香取市で展開したことを一つのキックオフとして、発酵と観光のまちづくりの推進に取り組むことになった。香取市としては、行政の柱として、発酵県発酵市といった連携の中で、オール千葉県の中で発酵文化をもっと発信していきたいということで現在取組を進めている。

例年10月末から11月末くらいまでの1ヶ月間、まちぐるみ小劇場・発酵劇場という形で文化芸術イベントを行っており、施設がない中でどうやって地域の中でいろいろな取組を進めていくのかというところで、古民家や広場など、みんなが町の中にある空間を活用しながら、一つずつ文化芸術に触れるような空間づくりに取り組んできた。地元の中学校・高校の生徒の日頃の部活動の披露の場や、プロにお越しいただいて子供たちと本物に触れる空間づくりにも取り組んでいる。普段の暮らしの中でも文化が生きていてそれが活動になっている場合もあり、実態としてはおそらくもっと多くの方が文化芸術に触れていらっしゃると思う。食文化においても、農業と発酵の掛け算ということで、例えばフランス料理を発酵のテイストで「発酵フレンチ」という形で提供している店舗もあり、ガストロノミーツーリズムの展開も増えている。このように、調査の拾い方によってはもっと多くの方が文化に触れていると思われるため、少し質問の幅を広げていただけると、千葉県が実はもっといろんなことをやっているという形になるのではないかと思います。

【委員】

この1年間に鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合が26.9%で、活動に関する情報を得られないことが要因の1つであるとのことだが、様々な事業について、実際どのような周知をしているか。10代から20代の若い世代はおそらくホームページをあまり見ないだろうということで、県教育委員会では今年からnoteを導入した。それから、ホームページに加えてInstagramやTikTokを始めている学校も多くある。素晴らしい事業がたくさんあるため、周知をもっと広げていただけたらなと感じた。

また、10代のアンケート回答数が少ないとのことだったが、学校現場に依頼があれば、簡単なアンケートならお答えできるため利用していただきたい。今は生徒が1人1台端末を持っておりFormsを通じて回答できるため、10代の意見も多く吸い上げられるのではないかと。

それから、周知の話に関連して、令和11年度に千葉県で全国高等学校総合文化祭が

開催される予定となっており、先日、大会の愛称、テーマ、イメージカラーが決まったが、皆さんご存じか。なかなか記事にもならないし、わからないのではないかと思います。ちなみに、愛称は「2029ふさの国ちば総文」、テーマは「受け継ぐは千の心 織りなすは新たな美」、イメージカラーは3色決まった。文化部のインターハイということで、千葉県の各市町村を会場として、各部門に分かれて、各都道府県の高校が発表を行う。全国的にも一般の方にもなかなか知られていないため、もっと知っていただきたい。

なお、文化芸術を鑑賞する又は文化芸術活動をするということに関連して、11月1日に千葉そごうにおいて、総文祭の1,000日前PRイベントを行うので、そういったことも周知していきたい。総文祭に関わることで、県民の文化芸術活動も増えていくのではないかと思います。今の中学校1年生から3年生までが主役になるため、我々としてもこれから周知活動をしていきたい。

【委員】

資料12ページの千葉県に愛着を持つ人の割合で、8割というのはなかなかの数字なのではないかと思い、感心した。8割とはどれぐらいすごいのかをもう少し知りたく、ぜひ何か具体的に数値化していただけるとありがたい。簡単に言うと、他と比較をするとわかりやすいかと思う。

併せて、県の北西部、東部、南部では、やはりそれぞれ特性が違うのではないか。他の項目で地域差があるという話も出ていたが、そういった各地域の特性も含め、このような場でシェアされていくと理解ができ、理解ができれば対策もしやすいのかなと思う。

それから、愛着を持つ率に関してどこの愛着が高いか、又はどこが弱いか。他の項目も同じで、冒頭の基本指標でも、受動的に鑑賞した割合は増えて78.5%になり、能動的に活動した割合は減少して26.9%になったとのことだが、やはりこれも細かな数字があるとよりわかりやすい。

続けて、先ほど、都市から離れた地域の方が文化芸術活動の参加者が多い、君津や南房総の方が文化芸術に触れている率は高そうだ、という統計を出していただいた。さっきと真逆のことを申し上げると、統計上はそうかもしれないが、実は千葉県の人口は北西部では増加しているが全体として減少傾向にあり、割合を出すうえで母数自体は非常に減っている。その辺りも問題として捉えて、何かしらの政策・施策を打っていかれるとありがたい。そのためには、数値的なところを超えて、もう少し実態に踏み込んで調査ができると良いと感じた。

また、各委員のお話を伺って、千葉県の良さはやはり多様性なのだとすることを改めて感じた。発酵といっても他県では納豆やお酒にターゲットを当てているところもあるが、千葉県には全部あることの良さを、千葉県民がちゃんと享受できるような仕掛けがあると良い。食文化について極端な話を申し上げると、消去法で、1年の中で味噌汁とご飯を食べなかった人、要するに千葉の文化を享受しなかった人を聞い

たら、おそらく0だと思う。これは半分冗談だが、それぐらいドラスティブなことをして、みんなですごいよねと確認ができるといいなと思った。そういうところに学生を使っていただくのもありではないかと思う。学生の学びにも繋がるし、実態の調査として現地に行ってインタビューするだとか、そんなお手伝いができるのかなと感じた。

【委員】

先ほども挙がっていた文化芸術という言葉の伝わり方について、調査をするときにその言葉を見てどう思うかによって回答も変わってくる。文化芸術は、人によっては非常に狭く、人によってはものすごく広く捉える場合があるためなかなか難しいが、これら全部が文化芸術に入りますというように対象を羅列すると、こういったものは全部該当するのだなという意識づけにもなるのではないかと感じた。

それから、何人かの委員がおっしゃったように、地域ごとの特徴が見えると次の打ち手が見えるのではないか。人口は圧倒的に北西部に偏っている中で、このようなデータが低い、ここが突出しているなどがもう少し見えてくるといろいろわかってくるのではないかと思う。昨年、千葉県生涯大学校東葛飾学園から、千葉県の観光の魅力についての講義の依頼を受けた。依頼の理由を伺ったところ、一つは生涯大学校のカリキュラムに観光というテーマがあったことと、東葛飾は県外から来た人が圧倒的に多く、通勤もほとんど都内でいわゆるベッドタウンになっていることから、観光を切り口に、千葉県民としてのシビックプライドを醸成したいとのことだった。いろいろ講義をしていくと、房総半島の南の方のことはあまり知られておらず、文化庁が推進する日本遺産である北総四都市についても、講義を受けられていた方々はご存じなかった。

このようなことから、やはり文化や観光については地道な活動を継続的に続けていく、何か打ち上げ花火をしてやったぞということではなく、地道な活動を地域ごとに細かく見て、それに合ったところをやっていくのが必要ではないかと感じている。現在、観光地域づくりという事業を行っており、養老溪谷の辺りで取り組んでいる。次は内房地区ということで、鋸山という山があり、元々石切り場だったところで非常に独特な景観になっている。先日、地域の方々との会合で、芸術のまちづくりにフォーカスし、例えば若手のアーティストを呼んで創作活動をしてもらい、発表会を開くといったやり方もあるのではないかと意見が出た。このように文化芸術を通じたまちづくりというのもできるだろうし、県庁の中にも様々な部局があるが、文化という横串で、観光や農業、水産業なども含めていろいろな情報共有をしていただき、文化に関係するところがあれば文化振興課も入りながらやっていくと、次の何か新しいものができてくるのではないかと感じた。

【事務局】

委員の皆様のお話を伺い、まずは分析力をもっと高めなければいけないと改めて

感じた。県政世論調査の表面上の数字だけを見るのではなく、年齢と地域のクロス集計と併せて、実態も踏まえて分析することの重要性を改めて認識したため、そのような分析を高めていきたい。

また、食文化や観光などについてもいろいろなご意見をいただき、県としてもリサーチ力を高めていかなければいけないと感じた。各地域の取組や、県庁の中でも他課の取組などに対するリサーチ力を高めて、文化との相乗効果を目指していきたい。

その他、文化芸術という言葉の伝わり方などについても、少し調査のテクニックのようなどころにはなるが重要だと考えているため、そういったところも併せて、文化芸術を通じた千葉県の発展に向けて、観光や福祉も含めて一体的に取り組み、最終的には県民の皆様に活動・鑑賞をしていただくとともに、県への愛着を感じていただけるようにしていきたい。

(2) 千葉県障害者文化芸術活動推進計画について

事務局から資料2により千葉県障害者文化芸術活動推進計画の今後の方向性について説明。

委員からの意見等は以下のとおり。

<質問・意見等>

【委員】

障害者文化芸術活動推進計画の内容を、文化芸術推進基本計画の中に入れていただくのは良いと思う。障害者芸術についてのみ計画が分かれているのもまた違うのではないかと考えているところがあった。ただ、障害者の芸術文化活動を推進するに当たっては、最初は計画を分けておき、後から統合していくというのは確かに一つの在り方だったと思う。

一方で、障害のある方の中には、「障害者」という名前がついているから安心して応募できるという方もおられ、現実として、障害を持っていることを理解してくれている方たちの中に入る安心感はある。このため、窓口自体は障害者という名前が入っているままの方が良いと思うが、おおもとなる文化芸術推進基本計画の中の一つに入るのは非常に良いことだと感じた。

障害者芸術文化活動支援センターは、一昨年度、全都道府県に少なくとも1つずつできた。障害者芸術はそもそも厚生労働省の事業であるため、センターの関係は各県の健康福祉部局が担っていることが多いが、千葉県では文化振興課が担当しているため、そのような体制の観点からも計画を統合するのは自然なことではないか。

【委員】

国の政策としては、文化芸術推進基本計画は文化芸術基本法という法律に盛り込まれている計画で、文部科学省の外局である文化庁の所管として整理されている。一方、障害者による文化芸術活動は、障害者に関する政策と文化芸術に関する政策の両

面がかかわるため、法律、基本計画ともに、厚生労働省と文部科学省（文化庁）が共同で所管している。文化芸術という切り口では、障害の有無に関わらず基本的にやることに大差はないため、合体したほうがいいというのが一般的な考え方ではあるが、それぞれの地域によって違うように思う。ノーマライゼーションというか、障害者の方も取り込んだ形で総合的にやろうという動きが今一番大きな流れになっているが、それは地域のニーズやこれまでの経緯によって在り方が異なる。千葉の場合は、窓口にアクセスしやすいような工夫はされるとしても、実態としてはノーマライゼーションの中の一つの部分と考えてもいいかなと思っている。

文化芸術基本法の改正と障害者文化芸術推進法の制定は、オリンピックの開催を契機としてできている。オリンピックはスポーツの祭典だけではなく、文化とスポーツのマリアージュとも言われ、しかも「オリパラ」ということでパラリンピックも入っているので、その観点で国は急いで基盤整備をしたというところもある。このため、国の動きを踏まえながらも地域の実情に合わせていくというのは、非常に妥当性があるのではないかと感じた。

もっと言うと、国は基本となるような計画を示しているが、地方分権の時代である今日、それぞれの地域が必要と考える範囲で国の計画を参照しながら自ら計画を作ることが望ましい。例えば、文化芸術基本法ができる前、つまり食文化も文化であると国が言う前から、食文化を文化振興計画の対象分野に入れていた県もある。このように、それぞれの地域の実情に合わせてニーズに合った形をとれば良い。計画は行政のツールであるため、目的に最もふさわしいやり方であれば良いのではないかな。

【委員】

先ほど言われていたように、障害者という枠でアクセスする方がやりやすいという方もいらっしゃる。計画上の書き方がどうなるかということと、実態の障害者に対するケアが、それは健常者と同じですよという形になってしまわないかは、懸念すべきところだと感じた。ケアが必要であればそれだけの予算もついてこななければいけない。

【委員】

当社では、長時間待てない方や様々な事情を抱えている方に対しては、優先的に最初にご案内するというのではなく、例えば待ち時間が60分ある場合には代替として60分後に来ていただけたらというような形をとっている。特別扱いではなく、同じように楽しんでもいただけるよう配慮するということが大きな方針となっている。

【委員】

学校現場では、配慮を要する生徒には入学時に合理的配慮の申請をしてもらい、学校ができる範囲で、支援計画を作って支援をしている。

芸術文化については、高等学校総合文化祭は、特別支援学校も一緒にやっていこう

ということで計画をしている。他県でもそのような形で進んでいるということで、特に区別をしているわけではない。千葉県では、現在総文祭の生徒準備委員会を開いており、高校生だけではなく特別支援学校の生徒も一緒に準備に加わっている。

【委員】

先ほどオリパラの話があったが、パラリンピックはオリンピックの後に実施することになっており、同時開催はしていない。分けるところはきちんと分けなければならないが、オリパラとしては一体的にやろうということになっている。また、総文祭は障害の有無に関わらずイベント全体を一緒にやろうというのが一つのやり方であり、そういったことも参考にできるのではないかな。

地域の事情や特性に合わせて考えていくべきということで、少なくとも千葉県としては障害者芸術文化推進計画を文化芸術推進基本計画の中に取り込んでいくことについて、反対という方はあまりいらっしゃらないかもしれない。一方で、それなりの合理的配慮が必要になってくるということを十分踏まえた上で、すべてがフラットではないということだと思う。

【委員】

計画が統合されるのは良いことだと思う。目で見えてわかる障害をお持ちの方と、そうでない方がいらっしゃる中で、どのように劇場として対応していくかが運営の課題だと考えている。こういった部分まで記載されると、より素晴らしい計画になるのではないかな。

【委員】

今後は少し流れを見守っていくことになる。障害者芸術に関わっている委員にはぜひオブザーブしていただき、ご助言をいただきたい。

(3) その他

事務局から令和8年度に開催する芸術祭について報告し、委員より、報告内容に対する意見等及び懇談会全体を通じての意見等があった。

<報告概要>

来年3月に開催する2つの芸術祭の進捗として、それぞれリーフレットが完成した。

房総国際芸術祭については、サポーターを募集している。サポーターとはボランティアの方のことで、来場者へのおもてなし、アーティストの作品制作の補助、作品設置会場の整備などの活動を行っていただき、作家、地域、作品、来場者をつなぐ芸術祭の中心的存在となっていく。個人のサポーターは既に100名以上の登録をいただいているとともに、企業や学校単位での参加も募集しており、いくつかの学校から参

加の申し出をいただいた。参加校には、総合ディレクターから芸術祭とはどんなものかという話などをしてもらった上で、活動していただく予定となっている。

サポーター登録は高校生以上となっており、高校生は保護者の同意を必要としている。活動に向けた研修会への参加などを経て、サポーター登録者には、事務局から活動の内容・日程・場所などを随時ご案内し、参加できそうなものがあれば返信いただいて、活動に参加するという仕組みになっている。皆様には日頃から様々ご協力いただいているところだが、サポーターの募集についても、機会があればぜひ紹介していただきたい。なお、県内の高校生には、noteを使って両芸術祭のPRをするということで教育委員会とも連携を図っている。県の中で同じ時期に2つの芸術祭があるのは非常に珍しいことであるため、両方の芸術祭を盛り上げていけるよう、ぜひ皆様にもご協力をお願いしたい。

【委員】

空・水・空は「そら・みず・くう」と読むのか。

【事務局】

空港の空（そら）、印旛沼や利根川からイメージされる水（みず）、大乘仏教の思想を表す空（くう）という言葉が芸術祭の名称の由来である。成田山の表参道にも作品が展示される予定となっている。

【委員】

このような取組をきっかけに、地域や観光と文化がマッチングできるような仕組みができると面白いと思った。

議題1について言い残したため補足するが、事務局からあったように、調査の回答の選択肢としてどちらかよくわからないものをなくしてしまい、良いか悪いかの傾向を明らかにするのは一つかもしれない。全ての設問をそのような形にするのではなくとも、アンケートのテクニックとして考えていただければ、より明確に回答が得られるのではないかと思う。

それから、柱4の「千葉県に愛着や誇りを感じる人の割合」が80%近いというのは、皆さんおっしゃったように結構すごいなと思った。いろいろなところでアンケートをやるが、やはり定住率が高い町は文化や芸術に対する評価も高い。一緒には聞けなないかもしれないが、定住率の高さが連動する結果になる可能性もあるので、そういう副次的な調査も必要なのかもしれない。

そして、場合によってはこのデータをある程度開示することで、大学の卒業研究に使ってもらい、総文祭で高校生に研究発表してもらおうとか、そんなことを仕掛けていけると面白いかもしれない。千葉の高校生から、千葉文化とはこういうもので、今の状況はこうだということを発表していただくというのが、総文祭の中にもあっても良いのではないかな。

【委員】

北西部にお住まいの方々は、もしかしたら南部や東部の良さを知らずに80%という満足率を出しているのかもしれないと思うと、こういう芸術祭などを通して千葉県の中の人たちが交流できる仕掛けができると、将来的には、県に愛着を感じる人の割合もより上昇し、取組の中身も本当に充実していくのではないかと感じた。知らずに評価している、知らずに損をしているようなことがないよう、ぜひこういう芸術祭等々で、何か仕掛けができると良いのではないかな。

そして、そんなところにももしかしたら大学も貢献ができるかもしれない。特殊な能力を持ったアーティストのような人だけが作品を作り他の人々は見ているというだけではなく、押しなべて誰しものが参加でき、何らか学びに繋がる、あるいはその地域の景観をより良いものにしていく、その地域の生活をより良くしていく、そんな仕掛けが少しずつでも始められると良い。そんなところに学生が上手く寄与していくというのもありかなと感じた。

【委員】

芸術祭に来た方に簡単なアンケートをとり、プロフィールだけでなく、どのように情報を得たか、なぜ来場したか、どこが良かったかなどはフォローした方が良いかと思う。今はアプリでデータの蓄積ができ、簡単にクロス集計もできる。県庁や市町の方々も、このような取組をやってどうだったかということをいろいろな形で使う必要があると思うので、感触としてみんな喜んでいたということだけではない何かがあった方が良いと感じた。

【委員】

サポーターの方へのアンケートも重要かもしれない。

【事務局】

本日は貴重なご意見をいただいた。県では、今後も計画に基づき文化振興施策を進めていくので、引き続きご協力を賜りたい。